

この資料は、カネキン小椋製盆所がプレス発表用に作成したものです。

# ろくろスピーカー

おぐら  
音蔵の商品化

平成 27 年 (2015 年) 1 月 16 日  
けやき工房 カネキン小椋製盆所  
小椋 浩喜

## ○開発経緯

南木曾ろくろ細工の伝統工芸士である私は、伝統工芸技術を活かした新しいモノを作りたいと考えていた。

かねてからオーディオに興味を持っていた私は、ろくろ細工がラウンドバッフルと理想的な内部構造を実現させる為に最適な加工方法であることを発見し、試作を重ねた。

さらに、理想の音を追及するスピーカーの材質・形状と、それを支える本体のデザインについて、専門家と協業し、「音蔵<sup>おぐら</sup>」を商品化。



## ○商品について

南木曾の伝統工芸、ろくろ細工の技法を活かしたハイレゾ（高解像度）スピーカー。

厳選された無垢のケヤキ材を大胆に使い、繊細に削り出された本機は、オーディオ・ホームシアター展等対外的にも注目を集めた。

定位感を追及したスピーカー本体は涙滴型とし、理想とされる点音源により近づいた。また、音質も研ぎ澄まされ、雑誌の評価を借りれば、“肌あたりはあくまでも柔らかく綿密な音、そして歌手の存在がごく自然に浮かび上がる”と評された。



## ○木地師と南木曾ろくろ

木地師は、その昔、文徳天皇の第一皇子、惟喬親王が皇位継承で敗れて近江愛知郡蛭谷に隠棲された時の従者、小椋大臣実秀、大蔵大臣惟仲の末裔とされている。

小椋、大蔵姓の両家とも全国各地の樹木を伐る免許証を持ち、木地師の統領であったといわれている。

すぐれた天然木を求めて、全国の山々に歩を印した木地師たちにとって、山深い信濃のなかでも木曾は絶好の地であった。豊かな材料に恵まれ更に、木地もの用具を生活道具として普及させるために最適だった。以来この地に定住し、南木曾ろくろとして発展した。

## 販売方法・お問合せ先

受注後生産致します。厳選されたケヤキから製作するため、完成までお時間を頂く場合があります。

カネキン小椋製盆所 〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻保神 4689-108 Tel:0264-58-2021

担当：取締役専務 小椋 浩喜